

自然林の様子を伝える 椎の木森



町指定天然記念物 椎の木森
(昭和47年10月3日 町重要文化財指定)



鳥居横のスダジイの巨木

篠窪の三島社境内には、スダジイを中心とした常緑広葉樹林が広がり、「椎の木森」と呼ばれてきました。樹高20mにも達するスダジイの大木の下には、タブノキ、ヤブツバキ、アラカシ、アオキなどの常緑樹が亜高木層や低木層を構成し、ジャノヒゲ、ヤブコウジ、シダ類など常緑草本が林床に生育して、町内に自生する森林性の常緑植物のほとんどを見ることができます。このことから、県内にある自然林の様子を伝える重要な叢林で、県の社寺林▶ランクに指定されています。

入口にあるスダジイの巨木は、昭和59年12月に「かながわの名木100選」に選ばれています。また、ほぼ北限に近いとされるモクレイシやカゴノキも見られ、長い時間「鎮守の森」として守られてきたこの森をこれからも保全していくことが大切です。



三嶋社
篠窪地域の鎮守であり、根渡・三嶋・八幡の三社を祀っています。旧来は根渡の神一社が祀られていましたが、上大井の三嶋神社を勧請し、神山にあった八幡社の三社を合祀したとされています。

